

第七十九回大分県民スポーツ大会を顧みて

大分県民スポーツ大会実行委員会 委員長 吉野賢一郎

「輝く笑顔……はばたけ 郷土のアスリート」のスローガンのもと、第七十九回大分県民スポーツ大会を、九月十二日から十四日までの三日間を主日程とし、県南ブロックを中心に、県内の十市二町で開催いたしました。

大会期間中は台風による影響があったものの、天候に恵まれ、三十二の郡市対抗競技と七の公開競技を合わせた三十九競技に、十七郡市十六チーム（国東市と東国東郡は合同）から七千六百六十七人の役員・選手が参加し、連日熱戦が繰り広げられました。

九月十二日に臼杵市民会館で開催した総合開会式には、国会議員、県議会副議長をはじめ、多くの御来賓の御臨席のもと、各郡市の役員・選手、大会役員、競技団体関係者、式典関係者など約五百人が参加しました。

式典前に行われた歓迎アトラクションでは、臼杵高校箏曲部の皆さんによる凜とした気品あふれる琴の響きに会場全体が魅了され、大きな拍手が送られました。

開会式では、日本ボリースカウト大分県連盟の皆さんを先頭に、各郡市総勢約三百名の選手団代表者が、ふるさと自慢の特産品などを掲げながら堂々の入場行進を行いました。国歌、大分県民体育の歌の斉唱は、佐伯鶴城高校吹奏楽部の演奏のもと津久見檜の実少年少女合唱団による歌声により、開会式に華が添えられました。

大会会長である佐藤樹一郎大分県知事の挨拶の後、五十回出場者等とスローガン作成者の表彰を行い、それぞれ表彰状や記念品が授与されました。また、選手宣誓では、ブロック会場の臼杵市、佐伯市、津久見市の代表選手が力強い宣誓を行いました。

大会運営では、競技団体をはじめ、関係者の献身的な御尽力により、成功裏に終了することができました。今大会は、ウエイトリフティング競技で国東市・東国東郡が、ゴルフ競技とカヌー競技で佐伯市が、それぞれ初優勝し、水泳競技、陸上競技、自転車競技、ライフル射撃競技で、大会新記録が生まれるなど、大分県民スポーツ大会の歴史に新たなページが刻まれました。

総合成績は、大分市が四十五大会連続七十一回目の総合優勝を成し遂げ、第二位には日田市、第三位には別府市がそれぞれ輝きました。

また、部別成績は、A部第一位大分市、第二位日田市、第三位別府市、B部は第一位臼杵市、第二位宇佐市、第三位杵築市、C部は第一位速見郡、第二位豊後大野市、第三位津久見市でした。

大会である以上、勝ち負けはありますが、参加されたすべての選手が精一杯練習に取り組まれた成果が遺憾なく発揮され、各会場において躍動する姿は、「スポーツ大分」を象徴するものであり、大会スローガンのとおり、県民の皆さんに笑顔と感動を届けることができましたものと確信しております。

結びに、県南ブロックをはじめ、県下の開催地市町、大会運営に御尽力いただいた競技団体等、関係各位に深甚なる敬意と謝意を表しますとともに、今後も本大会が一層充実・発展しますよう、皆様方の御支援と御協力をお願い申し上げます、第七十九回大分県民スポーツ大会の回顧とします。